

## 挨拶

平成23年4月1日  
京都市立北総合支援学校  
学校長 奥田 信一

始めに、本年3月11日に起こりました、東日本大災害で亡くなられた方々への哀悼の意と、今も避難所生活等困難な状況の中で頑張っておられる方々のご努力に敬意を表したいと思います。また、我々にできることを考えていきたいと思ひます。

3月11日は本校高等部の卒業証書授与式の日でした。午後になって大地震と津波のことを知り、目を疑ったものでした。我々の仲間である東北地方の特別支援学校でも、大きな被害にあわれたことと思ひます。東北地方のみならず、日本を元気にするよう1日も早くすべての学校で教育が再開できることを祈念しつつ、本校も頑張っていきたいと思ひます。

本校は、平成16年4月に、京都市で7番目の総合養護学校として、明治2年の開校以来、130年の歴史を持った元成逸小学校の跡地に、元学区のある養護学校として開校しました。

京都市では、平成12年度から、文部科学省の研究開発学校の指定を受け、障害種別を超えて、複数の障害種の子どもたちが共に学び、地域支援を目指す総合制の特別支援学校の教育課程について、研究を進めてきました。

本校は、研究開発学校の実践校という宿命を与えられて開校したと言えます。

そのため、研究開発学校の取り組みを広く問うことを使命と考え、開校以来毎年の研究報告会を行ってきました。

本校教育の基本は、「地域や保護者と協働し、地域の中で生きる力を育てる」ことであり、「個別の包括支援プラン」に基づく教育です。

指導では、「できる状況を整え、できることを増やし、自信を持って生活する子どもを育成すること」を基本に、「ライフステージを大切にす指導」「ねらいが明確で支援が適切な指導」「発達や障害特性に配慮した、個別で具体的な行動目標による指導」「PDCAサイクルによる、指導と評価の一体化」を目指してきました。

開校以来、大学や国立特別支援教育総合研究所、地域生活支援センター等の関係機関との連携、成逸地域の人的・物的資源の活用、学校運営協議会の設置、外部専門家等の活用等に取り組み、教育の質の充実を図ってきました。昨年の研究報告会では、国立特別支援教育総合研究所の西牧先生にご講演をいただき、この間の本校の取り組みの意義について裏付けを与えていただきました。

しかし、新しい学習指導要領の実施や、開校以来児童生徒数の増加が著しく、教職員数も150名を超える状況の中で、教育課程の再構築と指導の質の向上が課題となってきています。また、こういった課題の解決のためにも、より一層、組織的な学校運営が求められています。

今年度の教育目標や指導の重点は、別記を参照いただきたいと思います。ポジションワーク、報・連・相の徹底、人権感覚を研ぎ澄ますこと、日常的な授業や指導の点検、研修意欲や専門性向上の取り組み、謙虚さと自信等々、当り前のことを当り前に行動する教職員集団の形成を目指し、毎日の行動が子どもたちのモデルであり、本校の行動様式＝文化と伝統となるよう、努力していきたく考えています。

研究発表や視察等機会がありましたら、忌憚のないご意見をいただき、本校教育の発展にご示唆をいただきますようお願いいたします。



子どもの健やかな成長を願って衣料に多く使われた、西陣と関わりの深い紋様である「麻紋」の周りに、「京」の文字を表す六角の輪郭を配し、「北」の文字を図案化して、障害のある子どもたちが、周囲の人たちとの関わりの中で、未来に向かって羽ばたく様子をイメージしています。